

中本敬子著： 博士（文学）学位申請論文
「概念に見られる比喩性と比喩文理解・解釈構成過程に関する実証的研究」
に関する審査報告要旨

本研究は、知識構造に見られる比喩性について実験心理学的手法を用いて評価し、さらに従来提案されてきた比喩表現理解の認知心理学的モデルを処理過程の違いという観点から整理し、新たな仮説を提案したものである。

論文は、全体として6章から構成されている。第1章では比喩とは何かを論じ、認知科学における比喩研究の動向を概観した上で本研究の位置づけを行っている。認知科学における比喩研究が、一つは認知言語学で提案された概念メタファーの妥当性をめぐる議論であり、他方が比喩的言語表現の認知心理学的処理過程の研究、とくに主題と喩辞との類似性のモデル化であることを論じている。

第2章では、比喩表現理解を支える類似性認知に関し、複数の心理学的モデルを批判的にレビューした上でアライメントモデルの重要性に着目し、このモデルが類似性の文脈依存的性質をモデル化する有力な試みであることを強調している。アライメントモデルは、主題および喩辞に関する知識を相互に関連づけられた一連の命題として表現し、主題と喩辞の間で双方向的な比較を行うことで比喩理解が成されるとするモデルである。本モデルは、抽象概念が具体的概念との比喩的対応づけによって構造化されているという言語学的な概念メタファーの主張と一致するものである。本章において、筆者はこの両者の対応関係を整理し、アライメントモデルの心理学的妥当性と適用範囲を確定するための問題設定を行っている。

第3章では、概念メタファーに関して「学力」「怒り」の慣用比喩表現（例：「学力が開花する」「怒りは火である」）の調査を行ない、一つの抽象概念である主題に対して多数の喩辞的知識領域が対応づけられることを示した。さらに、比喩理解における身体的・知覚的経験（イメージ図式）へのアクセス自動性を実験的に明らかにした。

第4章では、“AはBのようだ”形式の直喩文の理解・解釈過程を2つの実験で検討した。本章では、第2章で概観した複数の類似性認知モデルを詳細に分析した上で、モデル間に見られる対立が比喩文理解の異なるプロセスに焦点を当てているために生じている可能性を指摘した。そして比喩処理には初期過程と後期過程があり、使用される類似性が異なる

ことを明らかにした。

第 5 章では、前章までの調査・実験を踏まえ、概念メタファーと個々の比喩表現との関係を論じ仮説的モデルを導いている。本仮説にもとづくと、先行研究での実験結果の不一致やモデル間の対立が解消可能であるとされた。第 6 章は全体のまとめである。

比喩研究の歴史は古いが、心理学的観点からの実証研究は日が浅い。言語学と認知心理学の両分野の研究動向を踏まえた上で、比喩文理解に関する独自の実証的研究を行ったことは、今後の言語理解研究の発展に寄与するものである。

以上により、本論文は博士学位論文としての内容とレベルを満たしており、博士（文学）の学位を授与するに相応しい論文であると認められる。

2003年6月2日

主任審査委員 西本 武彦 （早稲田大学教授）

審査委員 椎名 乾平 （早稲田大学教授）

審査委員 川崎 恵里子（川村学園女子大学教授）

以上